

追悼・阿部洋人くん

2011年27号

みなさん、お久しぶりです。

私のPCが不調になり、前回の「呑川レポート」から1ヶ月以上も経ってしまいました。

突然、ディスプレイの画面が真っ黒になり、パソコンを再起動したときは、それまでのメールや文書が消えてしまい、修理に出しました。

電源不良と言うことで直ってきましたが、なお時々症状が出て、再修理依頼。

今度はハードディスク不良で交換、アプリの再インストールや文書などを入れ直し、やっと元の体制に戻ったと思ったら、また同じ症状が出ました。

再び、再々修理依頼・・・こんどはメモリーボードの接触不良とのことでした。

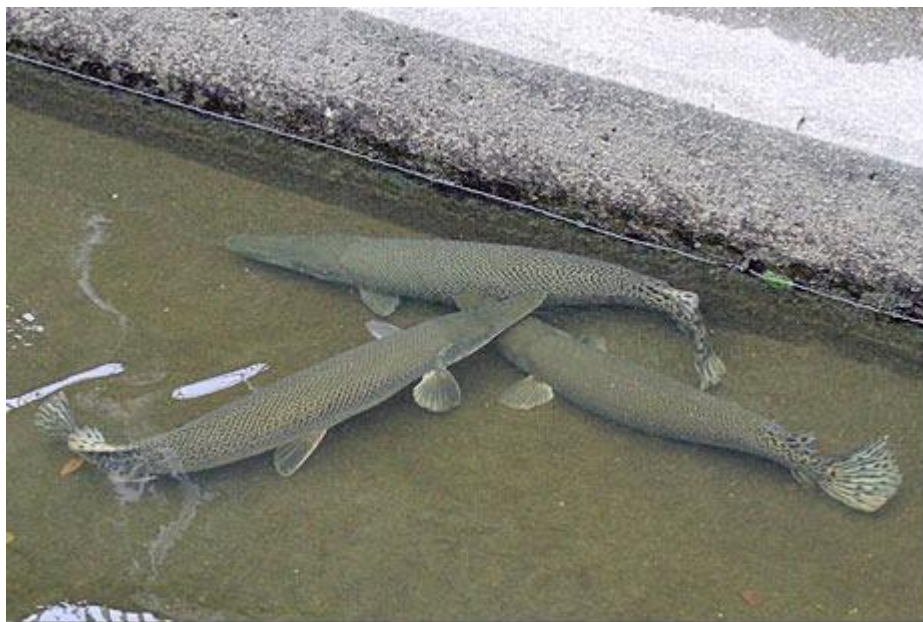
やっと良好になりましたが、メーカー側では迷惑をかけたと、5年経ったPCですが無料修理にしてくれました。

この間、約1ヶ月・・・

しかし、何となく不安で、新しいPCを購入してしまいました。

前回の「呑川レポート」配信直後、田所準子さんから、阿部洋人くんが9/16に急性白血病で亡くなったとの連絡を受け、大きな衝撃を受けました。

昨年の「呑川」は、アリゲーターガーが現れ、新聞・TVなどマスコミでも大騒ぎになりました。



私が昨年5月に最初に見つけ、みなさんにレポートしたときは1匹だけでした。

ところが6月になって3匹が現れるようになり、しかもメスに対し産卵行動を促すような行動を取るようになり、事態は一気に緊迫化しました。
「外来魚」の駆除に向けて、私たちは大田区に要請も行いました。

その渦中の中で、昨年7月突然、怪魚・大魚釣りを趣味とする若者3人が現れ、アリゲーターガーを釣り上げたのです。



これは最後のアリゲーターガーを捕まえたときの写真ですが、後ろで釣り竿を上げていた青年が阿部洋人くんです。
彼は、情報を聞きつけ、仙台から「呑川」に駆けつけて来たとのこと。



阿部洋人くんと私が最初に言葉を交わしたのは、呑川で捕まえたカニが

「モズクガニ」か「上海ガニ」と聞いたときでした。
最近、やはり外来種の上海ガニが増えてきているからです。
その時、彼は「これが、どちらかは判らない」と正直に答えていました。



阿部洋人くんと2回目の出会いは、アリゲーターガーが産卵をしたかどうか確認する作業日でした。

彼は身も軽く、オレンジのライフジャケットを身につけて、呑川のステップを降りて調査を開始します。

このとき、彼はタモ網を口にくわえて、両手をフリーにしています。

これは他の2人と違う、彼独特の行動スタイルです。



これは、彼の訃報の知らせと共に田所準子さんが送ってくれた写真です。まさに巨大な怪魚を釣った阿部洋人くんは、このときも口に糸やハリスなどが入っているのでしょうか、必要な道具を口にくわえ、両手をフリーにして魚と戦っています。

このスタイルが彼の闘争スタイルのように思えます。



アリゲーターガーの卵探しに、彼と3人の仲間が呑川で探索を続けています。

(右手前が阿部洋人くんです。)

アリゲーターガーも、他の魚と同じように、河床の小石に卵を産み付けた可能性があります。

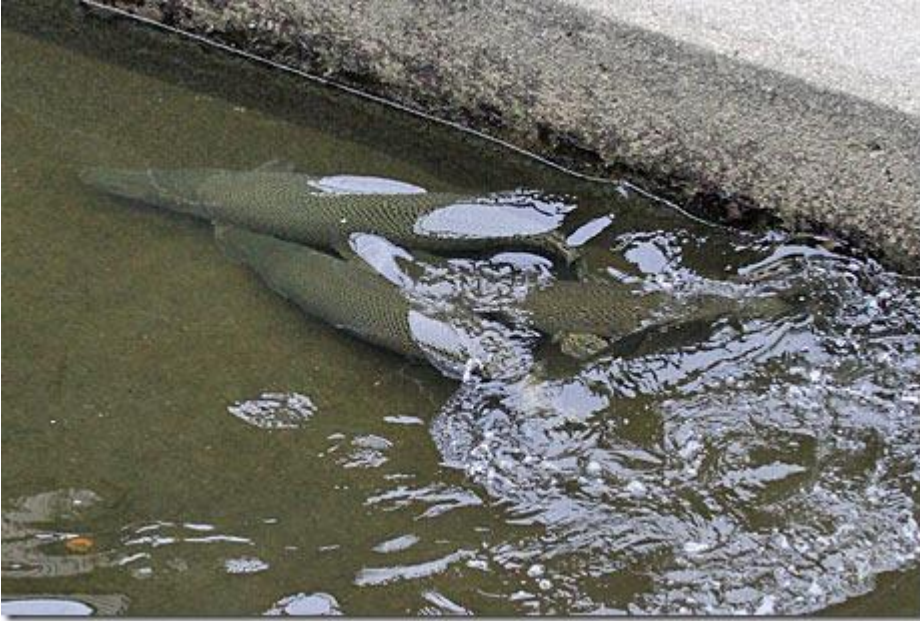


阿部洋人くんも、一生懸命タモ網で河床を探ります。



タモ網ですくった河床の小石や泥を探りますが、残念ながら、このときはガ어의卵らしきものは見つけれませんでした。

しかし、この場所を目くらめっぼう、探ったわけではありません。



この場所で一番ひんぱんに、ガー3匹が寄り添い、水面をうならせて、産卵したかのような行動を取った場所なのです。

でも収穫物もありました。



こんなにもたくさんのカニが、呑川に居るとは思いもかけませんでした。



探索活動が終わって、ほっと一息つき談笑しているとき、阿部洋人くん（右端）は「アリゲーターガーは、この呑川にもう1匹いる・・・」とつぶやきましたが、その時、どうしてそう考えるかを聞き漏らしました。



びっくりしたのは、その後です。
阿部洋人くんが、手提げ袋から取り出したのは、なんとアリゲーターガーの頭部剥製でした。



この剥製は、彼自身が作ったものだそうです。
阿部洋人くんにはそういう技術があり、魚を愛し、ほとぼしる情熱があるのを
その時強く感じました。

最後に、彼の彼らしい姿・・・いわゆるカッコイイ写真を紹介しましょう。



これは、白木さんのインタビューを受ける阿部洋人くんです。
彼のルックスとたくましさは、はやりの言葉で言えばイケメンの魅力があります。
今後の活動いかんでは、東京海洋大学の「さかなクン」以上の人気を博す
可能性があったでしょう。



左から小塚晃くん、宮内隆之くん、そして阿部洋人くんです。
私はこの3人が、この分野で日本で最高水準の釣り師であることは
知りませんでした。

その中で、阿部洋人くんが見せる、遠くを見るような表情は、心の中に
夢と野心を持った現れであると同時に、若者独特の不安を抱えているようにも
感じられました。

それはやがて、仙台を故郷とした彼に、突然訪れた「東日本大震災」の被災者に
なることを余儀なくされ、その不安は現実のものとなりました。

私は生きものの写真を撮っても、人物写真はほとんど撮りません。
人物写真は難しく、その人の生きざまや、思想、行動や癖などを把握しなければ
表現出来るものではありません。

ですから、この追悼写真を載せるに当たり、どう表現するか迷いました。

彼がこの世に別れを告げてから、まだそんなに日が経っていません。
仏教の教えに依れば、35日、もしくは49日は、まだこの世と天との間を
さまよっていると言います。

このとき、私に出来ることは、アリゲーターガー捕獲に関連する撮影した
写真の中から、阿部洋人くんが写っているものを選び出し、追悼写真として

報告することだけです。
心からご冥福を祈りたいと思います。

みんなで歩こう！ 恒例・秋の都市河川ウォーク

「紅葉の？妙正寺川ウォーキング」

*久しぶりにみんなで歩きましょう・・・こぞってご参加ください。

2011年11月12日（土） 10時 西武新宿線・「鷺ノ宮駅」集合

（解散は15時頃。西武新宿線・中井駅 または JR 高田馬場駅）

会費：500円

散策順路：約6キロ

当日の天気により実施が危ぶまれる時は、白石さん（090-6044-7275）まで連絡を

——photo essay by——

高橋 光夫